

科目名	環境学 Environmental Studies			担当教員 (研究室番号)		森下 直紀 (508)		教員への連絡方法 (メールアドレス)					
履修年次	4年次 前期	科目 区分	教養・基礎科目			選択 区分	選択	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	講義	科目等 履修生	可
												オープンクラス	可
科目 目的	本講義では、環境保護や公害事件の歴史に学び、現在の社会の問題にどう取り組んでいくべきかについて考える上での基本的な知識の習得を目的とする。												
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)											
	関連する DP	G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)											
到達 目標	・日本の戦後に発生した主要な公害問題についての概要を理解することができる。 ・公害の被害の社会的構造について説明することができる。 ・公害の被害の社会的構造を用いて、現在の社会問題の構造的問題について自らの考えを論理的に説明することができる。												
成績評価方法 (基準)		平常点 (30%)、最終レポート (70%)											
再試験の有無と 基準等		再試験あり。追加レポートによる。											
教科書		指定しない。											
参考書等		ボンティング、クライブ(2014)『緑の世界史(上・下)』朝日新聞社 花田昌宣・久保田好夫他編 (2017)『いま何が問われているか』くんぷる 飯島伸子・船橋晴敏編 (2006)『新版 新潟水俣病問題』東信堂 宮沢信雄 (1997)『水俣病事件四十年』葦書房											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待		・各講義に提出してもらったコメントペーパーの内容を踏まえて、学生の主体的な知的関心に応じて講義内容を変更する。											
備考													
回	学習項目					学習内容					主担当 教員	授業 方法	
1回	オリエンテーション					授業の進め方や授業の目的などについて説明する。					森下	講義	
2回	戦前期の公害と環境問題					高度成長期以前の公害にはどのようなものがあるかについて概観する					森下	講義	
3回	公害事件が立証困難である理由について					日本の公害事件が非常に長期にわたる理由として、被害の立証の問題がある。その理由について扱う。					森下	講義	
4回	水俣病の発見と行政の対応					水俣病は発見された前後の衛生・建設行政などの対応について説明します。					森下	講義	
5回	公害の対策と予防原則					予防原則を学習し、実際の公害対応との差異を検討します。					森下	講義	
6回	公害被害と社会構造					公害は身体的な被害とともに、社会における構造的な被害を生じさせます。言い換えれば、この日本の社会的な病について解説します。					森下	講義	
7回	映像資料「水俣病：その20年」(土本典昭)					映像資料を視聴し、その内容についてディスカッションを行ないます。					森下	講義	
8回	まとめと振り返り					講義を受けての履修者の考えも発表してもらいながら、全体の振り返りを行なう。					森下	講義	

学 習 課 題
・公害事件の多くはまだ終わったとはいいがたい。公害・環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ番組、インターネット上の情報、映画などを通して、公害・環境問題についての意識を高めるよう努力してほしい。また、こうした歴史的な学習から現代の社会における普遍的な問題を理解するように努力してほしい。

実務経験を活かした教育の取組